

シャーマニズムとは何か

DEEP ACID

2020/06/27

はじめに

発表の目的

–文化多様性の保護

生物多様性の保護と並んで、少数民族の文化多様性も守るべき

–宗教の観点から政治を見直す

目次

1. 序章

- ① 宗教とは何か
- ② 宗教の分類

2. シヤーマニズムとは何か

3. シヤーマニズムに惹かれる理由

4. シヤーマニズムはなぜ絶滅しつつあるのか

1.序章 ①宗教とは何か

- 宗教とは何か (Wikipediaより)
 - 人間の力や自然の力を超えた存在を想定する観念
 - また、その観念体系にもとづく教義、儀礼、施設、組織などをそなえた社会集団
- 宗教の立ち現れ方
 - 信仰 (心の持ち方)
 - 礼拝、巡礼 (信仰を態度に表す)
 - 教会、礼拝堂、神社仏閣 (共同体の形成)

教会



神社



1.序章 ②宗教の分類(1)

- 世界宗教(キリスト教、イスラム教、仏教⇒交易や戦争、布教で拡大)と民族仏教(地域宗教)
- 一神教と多神教
一神教は少数派だが、権力者による政治利用で勢力を拡大したものがある。
- 伝統宗教と新興宗教
日本神道(伝統宗教)は多神教だが、国家神道(新興宗教)は天皇崇拝の一神教(皇室神道は新司を天皇が執り行うだけで、天皇は神ではない)。

1.序章 ②宗教の分類(2)

● アニミズム

- 生物・無機物を問わないすべてのものの中に靈魂、もしくは靈が宿っているという考え方。神道はアニミズムに含まれる⇒神道の土着宗教的側面

● トーテミズム

- 特定の集団や人物、「部族」や「血縁(血統)」に宗教的に結び付けられた野生の動物や植物などの象徴
- (例)出雲の大国主神(おおくにぬしのかみ、蛇、事代主神の父)、事代主神(ことしろぬしのかみ、鰐)、建御名方神(たけみなかたのかみ、蛇、事代主神の弟)、大物主神(おおものぬしのかみ、蛇、大国主神の別名)⇒神道の皇室神道的側面

● シャーマニズム

- シャーマン(巫師・祈祷師)の能力により成立している宗教や宗教現象の総称

2. シャーマニズムとは何か(1)

- シャーマン(巫師、祈祷師)
トランス状態に入って超自然的存在(霊、神霊、精霊、死霊など)と交信する現象を起こすとされる職能・人物
- 北海道・樺太・シベリア・満州・モンゴル・朝鮮半島を中心とした北方文化圏の信仰研究から始まっているが、シャーマニズム自体は世界中に存在するとする学説が有力(南北アメリカ先住民にも存在)

2. シャーマニズムとは何か(2)

- シャーマンの超自然的存在との交信方法
 - 脱魂(ecstasy): 霊魂の身体から離脱して、霊界へおもむく。
 - 憑依(憑霊)(possession): 神霊、精霊が人物の身体に取り憑く。
- ※いずれもシャーマンはトランス(忘我)状態となる。
- 霊媒(medium、1人称の語り)、
預言者(prophet、3人称の語り)
- (預言者は正常な精神状態に回帰しても交霊の内容を覚えており、キリストやモーゼなどの開祖が含まれる。狭義のシャーマンは霊媒のみを指す)

2. シャーマニズムとは何か(3)

- シャーマンに選ばれる過程
 - 召命型: ある日突然心身の異状(巫病)として現れ、神霊によって選ばれたものと見なされる。(沖縄県周辺のウマレユタ)
 - 世襲型: 血統(沖縄県周辺のノロ)
 - 修行型: 修行、学習(沖縄県周辺のナライユタ、東北地方のイタコ)

2. シャーマニズムとは何か(3)

- 神道の「巫女」
- アイヌの「トウスクル」
- 下北半島の恐山におけるイタコ
- 沖縄県周辺のユタ
- シベリア地域ではトゥヴァ共和国、ブリヤート共和国、サハ共和国などに見られる。
- その他：メキシコ、キルギス、カザフスタン、ブラジル(アマゾン)、etc

巫女



イタコ



3. シャーマニズムに惹かれる理由

- 五感以外の「予知能力」と「鮮明知識※」を含む七感を活用する。※「涅槃」「解脱」
- 原始的な生活形態と親和性の高い宗教であるため、現代的な生活スタイルで忘れ去られた人生観を提供してくれる。
- シャーマンを中心とした信仰共同体は、血縁とは異なる「家族」の形式。

現代の「スピリチュアル」は伝統宗教とどう違うのか

- 歴史的実績から、思想・哲学的な合理性も含んでいるかどうか
具体的には
 1. 目的：伝統宗教：「救い（死後の平安）」、スピリチュアル：「（現世の）自己肯定、前世の重視」
 2. 超越的存在の有無（スピリチュアルは神仏を信仰するのではなく、あくまでも自己の理解、肯定）

シャーマニズムは「東洋的」

- 西洋は一神教が多い→領土拡張の過程において、非占領住民を統一する上で信仰の対象を統治者が利用しやすかった(神聖ローマ帝国における法王)。
- 東洋は多神教が多い→仏教の先祖信仰、神道の八百神、シャーマンを中心としたシャーマニズムは、いずれも信仰の対象が身近である必要があり、遠方からの侵略をあまり受けていない。(日本神道は古くから天皇と言う「祭祀」(シャーマンに含むかどうかは議論が分かれている)で統一を図った)

4. シャーマニズムはなぜ絶滅しつつあるか(1)

- 政教分離（帝国主義）

シャーマンと言う宗教的リーダーから王や為政者が取って代わる。

→世界宗教は教祖自身が為政者となるか、あるいは為政者が教祖を民衆をまとめ上げる存在として利用するが、シャーマンは家族の長的な存在であり、帝国主義により地域統一を妨げる存在として排除された。

4. シャーマニズムはなぜ絶滅しつつあるか(2)

- 生活の近代化

シャーマンの医療行為が近代医学やカウンセリングに取って代わられる。

→医療行為としては近代医学の方が多くの点で優れていることは歴史が証明している一方、社会共同体の分断に対するシャーマニズムのような小さな共同体のあり方を問うべき時代にある。

また、極北地帯では現代医学があっても平均寿命は短い。生存そのものが厳しい地帯にあっては、治療よりも心の平安が優先する。

4. シャーマニズムはなぜ絶滅しつつあるのか：現代に見直される新しい解釈

- 精神病患者の社会の受け入れ方（奄美のユタ）
- 自然との交流（ヨガブームetc）

END